

令和8年度 第5回 国立大学法人三重大学教育研究評議会 議事概要

日 時 令和8年8月19日（水）13時30分～14時30分

場 所 事務局2階 大会議室

出席者 伊藤学長

金子、湯浅、佐久間、織田島、西岡 各理事

富樫、柿沼、尾西 各副理事

森脇副学長

豊福、宮岡、山崎、今西、橋本、諏訪部 各学部・研究科長

野崎、伊藤敏、池浦、木村 各評議員

欠席者 田中理事、坂東、福祿 各副学長、鈴木評議員

陪席者 中津、小川 各監事

企画総務部長、財務部長、学務部長、施設部長、図書・情報部長、医学・病院管理部
長、企画総務部総務チーム

I. 審議事項

1. その他

なし

II. 報告事項

1. 若手リサーチセンター内ユニットの認定について

金子理事から、「資料：報—1」に基づき、若手リサーチセンター内ユニットの認定について、報告があった。併せて、研究スペース等の支援環境について意見があり、今後制度を運用しながら改善していく旨の説明があった。

2. AX時代に求められる人材像について

織田島理事から、「資料：報—2」に基づき、AX時代に求められる人材像について報告があった。

3. その他

なし

III. 意見交換事項

1. 2040年を見据えて三重大学が目指すミッションと機能強化に向けた対応について

金子理事から、「資料：意—1」に基づき、前回までの意見を踏まえた修正内容及び文部科学省への提出に向けた最終案について説明があり、今後の具体的な対応等について意見交換が行われた。

<主な意見>

- ・本資料を第5期中期目標・中期計画の検討の土台として学内に共有し、学内からの意見も踏まえて具体的な検討を進めていく必要があるのではないか。
- ・新たな教育研究組織について、重点的に取り組む研究分野、教員組織及び改革の効果を検証する指標を具体化するとともに、教員の会議・事務負担が過大にならない運用を検討する必要があるのではないか。

- ・産業や専門知識を重視する一方、総合大学としての社会的役割、教養教育、ダイバーシティ及びジェンダーの視点も明確に位置付けるとともに、新たな教育組織の名称や当該組織が対象とする地域・分野等のコンセプトをさらに具体化する必要があるのではないか。

2. 四日市教育研究拠点の設置について

金子理事及び今西工学研究科長から、「資料：意－２」に基づき、四日市市が設置を検討している公立大学との連携を含む四日市教育研究拠点の構想、工学研究科内の検討状況及び全学的な活用の可能性について説明があり、今後の進め方等について意見交換が行われた。

<主な意見>

- ・工学系に限定せず、リカレント・リスキリング等を含む全学的に活用できる教育研究拠点とし、各学部の意見や活用案を構想及び協定に反映してはどうか。
- ・新たな教育研究拠点の設置により、工学部の強みが分散しないよう、教員組織及び運営体制の在り方を検討する必要があるのではないか。
- ・資料について、記述の主体や決定者が分かりにくい箇所を明確にするとともに、女性人材育成の視点も盛り込んでどうか。

3. その他

なし

以上